

デザイン思考を実践フェーズへ エスノグラフィーを学ぶワークショップ

ワークショップの概要

テーマ：ユーザーの観察から、ニーズを見つけてサービスを考えるスキルを身に付ける
—エスノグラフィー調査で街を観察。デジタルで実現可能な「働き方」を考えてみよう—

政府が2017年に策定したデジタル・ガバメント推進方針では「利用者中心の行政サービス改革を推進すること」が掲げられています。利用者である国民のニーズを起点としたサービス設計にはデザイン思考のアプローチが必要です。特にユーザーの実際の行動を調査することは、サービスデザインにおいて重要なポイントとなります。

今回はデザイン思考のスキルの一つである「エスノグラフィー (ethnography)」を学びます。「エスノグラフィー」とは、文化人類学や社会学、心理学で使われる研究手法の1つです。フィールドワークによって人の行動を詳細に観察し、問題やニーズの発見につなげます。そこから得られた情報を人間中心のサービス開発に活かすエスノグラフィーの手法は、マーケティングやマネジメント、人材育成などの分野において新たなニーズや問題を発見する有効な方法として注目を集めています。

フィールドワークのテーマは「働くとは何か」。デジタル技術の進化により、わたしたちの労働環境は大きく変化し始めています。「働き方改革」が注目される中、人々がどう「働き」、何に「喜びを感じているか」、身近な街を観察し、テクノロジーでどんな変化を起こせるのか、行政はどう関われるのか、そのヒントを探ります。

プログラム内容 【10月8日（火）・10日（木）2日間コース】

Day 1

17:30 - 18:00 エスノグラフィー調査の基礎知識 (座学・60分)

講師：後藤真理絵 先生

一般社団法人Design for All Chief Ethnography Officer

18:00-18:30 ノートテイキングとファクト記述 (演習)

18:30-20:00 フィールドワーク (90分)

座学で学んだエスノグラフィーのポイントをもとに、実際に街へ出てフィールドワークを行います。

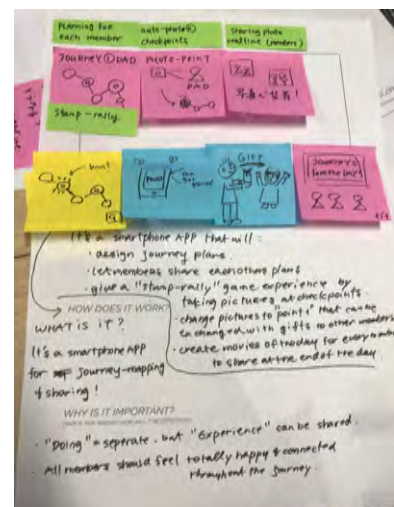
Day 2

17:30-18:30 復習とガイダンス 講師：後藤真理絵先生

17:45-18:45 ファクト共有・ファインディングスの共有 (60分)

18:45-19:45 チームディスカッション・インサイト発掘

19:45-20:00 各チームによる発表・まとめ



日時および詳細

日時：2019年10月8日（火）・10日（木）

場所：日比谷図書文化館 スタジオプラス (小ホール)

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4

主催：一般社団法人行政情報システム研究所 (AIS)

受講料・無料 / 募集人数・15名程度

お問い合わせは一般社団法人行政情報システム研究所

調査普及部ワークショップ担当まで (増田)

mail: adp@iais.or.jp

tel:03-3500-1121